

シェイクスピア

オセロー

リチャード三世

夏の夜の夢

ヴェニスの人

じゃじゃ馬ならし

福田恆存 訳

世界文学全集 II-2 シェイクスピア



© 1969

編集委員

阿部知二 伊藤 整
桑原武夫 手塚富雄
中島健蔵

昭和38年4月10日 初版発行
昭和44年9月15日 8版発行

定価 430円

訳 者 福 田 恒 存
発 行 者 中 島 隆 之
印 刷 者 多 田 基
装 幀 原 弘

印 刷・多田印刷株式会社
製 本・中西製本印刷株式会社

発 行 所 東京都千代田区 株式会社 河出書房新社
神田小川町三の六

電話東京(292) 大代表 3711
振替口座 東京 10802

落丁本・乱丁本はお取替えいたします

目 次

オセロー	1
リチャード三世	101
夏の夜の夢	205
ヴェニスの商人	267
じゃじゃ馬ならし	345
年 譜	437
解 説	433
	(訳 者)

才
セ
口
ゝ

場所

ヴェニス、およびサイプラス島

人物

ヴェニス公

ブラバンシヨ

その他の議官たち

グレイシャーノ

ロードヴィーコ

オセロー

キャシオ

議官、デズデモーナの父

ブラバンシヨの弟

ブラバンシヨの親戚

ヴェニス政府に仕えるムーア人貴族

オセローの副官

イアーゴ

ロダリーゴ

モンターノ

道化

デズデモーナ

エミリア

ピアンカ

オセローの旗手

ヴェニスの紳士

サイプラス総督、オセローの前任者

オセローの従僕

ブラバンシヨの娘、オセローの妻

イアーゴの妻

キャシオの情婦

他に水兵、使者、布告係、役人、紳士、樂士、侍者たち

1

〔第一幕 第一場〕

ヴェニス の町なか

ロダリーゴーとイアーゴーとが出てくる。

ロダリーゴー ふん、問答無益、腹も立とうというものはいいかい、きみがだよ、イアーゴー、わが財布とは言いながら、その紐はその手に預け放しのそのきみがだ、なんと一部始終をごぞんじだったとはね。

イアーゴー とんだ言いがかりだ。どうやらきみには話を聞く気がないとみえる。いいか、たとえ風のたよりにもせよ、そうと知っていたとなれば、おおさ、この首をやる。

ロダリーゴー きみはやつを憎んでいると言っていたじゃないか。

イアーゴー おお、憎まずにいられるものか。この町のお歴々が三人、親しくやつに会って、このおれを副官

にと頭をさげて頼んでいるのだ。口はばつたいが、自分の値打ちは自分で知っている、どう踏んでもそのくらしいの地位は当然だ。それをやつは、おのが意地ずく意のままにふるまいたいばかりに、三人を態よくあしらひ、もって廻った美辞麗句に軍隊用語をやたら織りまぜての逃げ口上、そして、とどのつまりは、こちらの敗訴、せつかくの口添えをにべもなく一蹴、「まことの話」とやつの曰く「既に副官は任命ずみのことなれば。」ところで、その男がだれたと思う？ いやはや、それが算数の大家、マイケル・キャッシュと名のるフロレンス人、いい女を手に入れて亭主気どりの今にもおめでたくなりかねない男なのだが、いまだかつて野に出で陣頭に立った経験のないことはもちろん、いざ敵と相對して部隊の配置をどうしたらいいかと言われれば、小娘ほどの知恵もない——あるのはただ本で仕込んだ空理空論、それなら長袖の役人でも結構負けずに弁じたてられようというものさ。単なるおしゃべりだけの実践ぬき、軍人としてのやつの上はそれに尽きるのだ。しかも、そいつが、おい、聞け、大將のお眼鏡にかなったというのだぞ。一方、おれは、その目で十分御覽じたはずだ、ローズ島からサイブラス島、そのほかクリスト教国と否とを問わず、至るところで手柄をたててきたこのおれは、帳つけ野郎の風下

に追いやられ、帆もあげられず小さくなっていなければならぬのだ。算盤野郎め、やつはまんと副官になりあがり、一方、おれは——おお、神よ、人もあるうに——ムーア御前の旗持ちだ。

ロダリーゴー それどころか、おれはいっそやつの首絞め役人になりたい。

イアーゴー まあ、今さらどうにもしようがあるまい。

ここが人に仕える身のつらさ、昇進はすべて後楯とえこひいき、今どき古風に年季を楯に、二番目が一番目のあとを継ぐなどと思ったら大間違い。さあ、ひとつ伺おうじゃないか、やつぱりおれは、なんでもかんでもあのムーアに心中だてしななければならない男かどうか。

ロダリーゴー そんなやつに尻っぽを振る馬鹿がいるものか。

イアーゴー まあさ、お静かに。おれがやつに尻っぽを振っているのは、いずれはお返しをしようという寸法さ。だれもかれもが頭になるというわけにもゆかないし、頭という頭が、心から子分に尻っぽを振ってもらうというわけにもいかなない。なるほど忠義一途の飛蝗野郎というのはどこにもいる。おのが奴隷の境涯にありがたがって身をささげ、傭主の驢馬そっくり、そうして一生を使い果すのはいいが、それもただ飼葉ほし

さの一念からで、あげくのはては、老いさらばうて放りだされるのが落ちというわけさ。馬鹿正直もいかにげんにするがいい。そうかと思えば、猫かぶりの忠義面、手前の心はもっぱら手前のために取っておくという手合いがいる。主人にはせいぜい忠勤ぶりを御覧に入れておいて、絞れるだけ絞り取ろうという算段だ。そうして上着に裏を張り、ふところが温くなりだすと、

あとは手前だけかわいがるというやつさ。こういう手合いには性根がある、それこそ、何を隠そう、かく言うおれ様。なぜと言って、そうだから、汝はまさしくロダリーゴー、しかしてその事実に誤りなき以上、もし予をしてかのムーアたらしめば、予はついにイアーゴータりえざるは明かなりで、やつに尻っぽを振って見せてはいるものの、つまりはわれとわが身に尻っぽを振っているだけの話。いいか、「知る人ぞ知る」だ、誓って義理人情などのためではない、そう見せかけて、ねらいはもっぱらわが身の利益さ。正直な話、目に見える行いにこの胸底の心の動きそのままをあらわに出して見せようものなら、それこそ事だ、たちまちにして、心臓を袖に引掛け、鳥につつかせるようなさまになる——おれは見かけとは違った男なのさ。

ロダリーゴー まったく果報者だよ、あの厚唇め、このままうまくゆこうものならぬ！

イアーゴー 女の親爺おやじを叩き起すのだ。やつを狩り出し追いたてろ。喜びの真最中に毒を浴びせてやれ。事の次第を辻々に触れまわり、身内のやつらをかっとなさせるのだ。やつめ、今ごろはぬくぬくと収めていようが、その肌はだにうんとこさ蠅はをたからせてやるがいい。それでもやつは結構うれしがっているだろうが、とにかくじっとしていられなくなり、少しでも興ざめの気分を味わわせてやらなければだめだ。

ロダリーゴー ここがあの女の親爺の家だ、ひとつ大声でどなってやろう。

イアーゴー さあ、やれ。相手が震えあがるような調子で、いかにも恐れげな声を絞り出すのだ、だれも知らない夜中の建てこんだ町なかで、火事を見つけたときのようにな。

ロダリーゴー やい、おい、ブラバンシヨール！
バンシヨール様、おい！

イアーゴー 起きろ！ やい、おい、ブラバンシヨール！
泥棒どろぼうだ！ 泥棒！ 泥棒！ 戸締に気をつけろ！ お嬢さんにも！ 金袋もだ！ 泥棒だぞ！ 泥棒だ！

ブラバンシヨールが二階の窓に姿を現す。
ブラバンシヨール どうしたというのだ、仰々しい、いきなり人を呼びたてたりして？ 何か起ったのか？

ロダリーゴー シニョール、お家はみなさんおそろいでいらっしゃいますか？

イアーゴー 戸はどこも錠がおろしてありましような？
ブラバンシヨール え、どうしてそんなことを訊くのだ？
イアーゴー これはしたり、お邸しやうに盗人がはいったのですぞ。そのままではまずい、さ、早く上衣を。それ、あなたの心臓はもうつぶれてしまっている。魂もすでに半ばはどこへやら。今も今、劫きやくを経た黒羊があなたの白羊の上に乗りかかっているのだ。ぐずぐずしてはおられません。鐘をならして町じゅうをいぎたない眠りからさましてやるのです。さもないと、あの悪魔、お孫さんを造ってしまいますぞ。さあ、早く、早く。

ブラバンシヨール どうしたのだ、気でも違ったのか？

ロダリーゴー おお、シニョール、この声にお聞きおぼえはございませんか。

ブラバンシヨール ないぞ、だれだ？

ロダリーゴー ロダリーゴーですよ。

ブラバンシヨール 貴様か、人もあろうに。この家のまわりをうろつくなど言っておいたはずだ。しらふのときに、その耳ではっきり聞いていよう、娘はやらぬと言ったのを。それを今ごろなんというさまだ、夕飯の気ちがい水をたらふく飲んで正気を失い、何か悪どいいたずらでも思いついて、わしの安眠を妨げに来おった

のだな。

ロダリーゴー そんな、そんな――

ブラバンシヨール よく心得ておくがいい、気力といい地位といい、貴様になめられる覚えはない。今日のこ
と、いづれ目にも見せてくれるぞ。

ロダリーゴー 申しわけございません。

ブラバンシヨール 盗人がどうのこうのと言っておったが、いったい何事だ？　ここはヴェニスだぞ、野中の一つ家ではないわ。

ロダリーゴー おお、ブラバンシヨール様、当方、なんの私心、下心がございましょう、ただもう誠心誠意、お
ためを思って駆けつけましたので。

イアーゴー これはしたり、あなた様というお方は、神
のために奉仕せよとのすすめも、それが悪魔の言葉と
あれば、断じて応じぬ手合いの一人とお見うけしまし
た。よろしいか、私どもはあなたのおためを思って駆
けつけてまいりました、それをあなたはごろつき呼ば
わりなさる、どうやらあなたはお嬢様の上にアフリカ
産のバーバリ馬がおつかぶさつてくれるのを待って
おいでらしい。いづれ次々に孫、曾孫とお出来になつて、
ひんひんまごまご鼻をこすりつけに來られるのを待
うとおっしゃるのだ。

ブラバンシヨール けがらわしいやつめ、どこのどいつ

だ？

イアーゴー かく申すやつがれば、ただ今お嬢様とムー
アめとがおそろいで、背中が二つある怪獣ごっこの最
中と、ただその御注進役に、ここにこうして。

ブラバンシヨール 貴様は悪党だ。

イアーゴー そちらは、議官様。

ブラバンシヨール こいつもおまえの責任だぞ。おまえの
ほうはよく知っているからな、ロダリーゴー。

ロダリーゴー は、責任はなんでも負うつもりでおりま
す。ただぜひとも御意を得たいことが一つ、もしあれ
が御自分のお望みから、しかも十分お考えになったう
えでのこととおっしゃるなら、いや、どうやらそのよ
うにお見うけしますが、つまり、あの美しいお嬢様の
夜遊び、今も今、時もあるうにこの真夜中、供の者と
言えば良いも悪いも小僧っ子ひとり、流しのゴンドラ
の船頭だけ、そうしてあの女たらしのムーアのけがら
わしい腕の中に抱きとられようという――それもと
うに御承知で、しかもお許しあつてのこととおっしゃ
るなら、それこそ当方のとんだあやまち、さしでがまし
い御無礼を働いたことになりました。しかし、そん
なこととは知らなかったとおっしゃるなら、御無礼な
らぬ御無理はそちら、当方のふるまい、おしかりを受
ける筋合いではございません。けっして誤解なさいま

せんよう、礼儀作法をわきまえぬため、長上にたいしてからかい半分の戯れを働いたなどと。お嬢様は、もしまだお許しが出ていないとすれば、何度でも申上げます、とんでもない謀反を企てたことになる。子としての勤め、天成の美しさ、それにおのが分別、未来、一切合財を、あちらこちらと行くえ定めぬ根無草のよそ者に預けてしまわれたのだ。今すぐ御自分の手でお確かめいただきたい、万一小部屋に、ともかくもお邸の中においてになったら、御遠慮なく国法に照して御処分いただきますよう、こうして偽りたばかった罪を。

ブラバンショー ともし火を用意しろ、さあ！ ろうそくを持って来い！ 家じゅうを起せ！ そういえば思い当る節がないでもない。いやな夢を見た、そのせいか先ほどから胸騒ぎがしていたのだが。明りを、おい！ 明りを！（引込む）

イアーゴー では、また。こうしてはおられないからな。どう考えても、立場上まずいし、おもしろくない——ぐずぐずしている、そうなりかねないが——このままムーアの前に引張り出されてもしてみろ、万事休すだ。そうさ、おれにはわかつているのだ、政府の出方が。たとえこの件でやつに多少の譴責を食らわせたところで、それで思い切って首にするなどという芸当はできっこないのだ。そうさ、やつは目下サイブ

ラス戦争を一手に預っている、それが、政府にしてみれば、正に拝みます頼みますのていたらく、しかも戦は今がたけなわ、こうなってはどうもこうもない、やつに代る器量人で国事を託すに足る人物など、どこにも得られようはずがないからな。それを思えばこそ、憎いやつめに始終地獄の責苦をなめさせられているおれだが、身すぎ世すぎのためともあらば仕方はない、旗を振って忠誠の印を見せておかねばならぬのだ。もつとも、文字どおり、お印だけの話さ。いいか、覚えておけよ、やつのは居所は本陣のサジタリーだ、追手の連中が出て来たら、そこへ引張って行くのだ。おれも大将といっしょにそこにいる。では、また。（去る）

階下の戸口から、ブラバンショー、炬火をもった召使たちが出て来る。

ブラバンショー もう取返しがつかぬ、娘は行ってしまった。ないがしろにされた余生、残っているのはみじめさだけだ。おお、ロダリーゴー、どこで見かけたのだ、娘を？ かわいそうなやつ！ ムーアのやつといっしょだと、そう言ったな？ 父親になどなるものではない！ どうしてわかったのだ、あれだということが？ ああ、あれがこれおれを欺く、とても考えられぬ！ あれはなんと言っていた？ もっとろうそくをよこせ。親戚のものを片端から起してまわれ。二人は

もう式をあげてしまったと言うのか？

ロダリーゴー 確かに、そうとしか。

ブラバンショー どうしてくれよう！ それにしても、どうやって逃げだしたのだ？ ああ、血が血にそむく！ 世間の父親に教えてやる、これからはもう娘を信用せぬがいい、うわべの行いだけを見て安心などしていたら大間違いだぞ！ ひよっとすると、若い娘の心をまだわすまじない薬でもあるのかもしれない？ どこかで読んだことはないか、ロダリーゴー、そんな薬の話？

ロダリーゴー は、確かに読んだことがございます。

ブラバンショー 弟を起して来い。ああ、こんなことなら、娘はあなたに貰っておいてもらえばよかった！ さ、一手はこちらだ、一手はあちらへ行け。あなたは知っていよう、どこへ行ったら、娘とムーアがつかまえられるか？

ロダリーゴー なんとかやつを見つけたしてごらんにいれましょう、ともかく護衛の手のものを引連れ、わたしについて来てさえただければ。

ブラバンショー 頼む、案内してくれ。軒なみに起して廻ろう。わたしの頼みだ、たいていの家は力を貸してくれるはずだ。みんな、得物を忘れるな、いいか！ それから、夜警の役人と呼んで来い。さあ、ロダリー

ゴー。きつとむだ骨は折らせぬぞ。(一同退場)

2

〔第一幕 第二場〕

ヴェニスの町なか、他の場所
オセロー、イアーゴー、炬火たきろをもった侍者たちが出て来る。

イアーゴー いや、戦争となれば、当然、人を殺しもしました。しかし、こいつはあくまで良心の問題で、計画的な殺人だけはやりたくない。つまり、それだけの悪党になれないということになりましょうか、そのほうがわが身のためだとわかっていても、どうにもなりません。それこそ、何度やつつけてやろうと思つたか知れませんが、やつのあばらの下を、こうぐざりと。
オセロー 放っておくがいい。

イアーゴー いや、なりませぬ。やつはべらべら口から出まかせの悪口雑言を並べたてて、將軍を中傷しております。もともと聖人には縁の薄いわたし、やつとの思いでこらえました。それよりも、大丈夫でございました。申しような、式は完全におすませになりましたか？ 申しあげるまでもございますまいが、あの議官殿、大した

人望の持主で、議事決定権についても、ヴェニス公同様、二票分の勢力をもっておられる人物。いざとなれば、御結婚の取消もしかねませんし、あの手この手と法律を楯にあらゆる手だてを講じて抑圧の手をのびしてまいりましょう。

オセロー 思うようにさせておくがいい。おれがこの国の政府に尽した功績には、あの男の訴えも齒が立つまい。それに、まだだれにも言ったことはないが——名譽のためには時に大口もたたかねばならぬとならば、あえて言おう——おれは人となり王族の出であり、功績の点から言っても、なんの引けめもない、今こうして手に入れた幸運、誇らかに要求する権利があるのだ。そうではないか、イアーゴー、もしおれがデズデモーナを愛していないなら、だれがこのさすらいの自由な境涯を籠の中に閉じこめてしまおうものか、たとえ海の幸をことごとく引換えにくれると言われようとも。待て、向うから明りが！

イアーゴー 父親と一味の者どもでございましょう、起されたものと見えます。さ、早くおはいりになったほうか。

オセロー 何を言う、このままここで待つべきだ。おれの氣質、夫としての立場、良心、いずれに賭けても、何ひとつやましいことはない。確かにあの連中か？

イアーゴー これはしたり、違うようですな。

キャシオー、炬火をもった数名の役人が出て来る。
オセロー ヴェニス公の御家来だな。副官もいっしょか！ 夜よなか、御苦勞！ 何かあったのか？

キャシオー ヴェニス公のお言葉です、將軍、至急御出頭を、瞬時の暇もあらせずとのこと。

オセロー なんの御用だ、知つていような？

キャシオー 何かサイプラス島から情報がはいったらしゅうございます。よほどの緊急事らしく、艦隊からの注進が引きも切らず、この真夜中に踵を接して次から次へと。議官連もおおかた起きいで、公の御前に参着いたしております。將軍をとの火急のお召しでございましたが、お宿にはおいでにならぬので、議会は三組の使者を出しておさがし申しあげていたところでございます。

オセロー 会えてよかった。しばらく待つてくれ。一言、言い残しておくことがある。すぐいっしょに行くぞ。（家のなかにはいる）

キャシオー おい、旗手、將軍は何をしておいでなのだ、こんなところぞ？

イアーゴー いやさ、それが今夜は陸を走る大船を乗取ったというわけだ。その略奪品が合法的だと決れば、將軍の御運もこれで定ったと言えような。

キャシオー なんのことか、わからぬ。

イアーゴー 將軍は結婚したのだ。

キャシオー 相手はだれだ？

オセロー、ふたたび登場。

イアーゴー それさ、その相手というのが——おお、將軍、お出かけになりますか？

オセロー いっしょに行こう。

キャシオー あそこに別の一隊が、やはり將軍をさがしに。

イアーゴー ブラバンシヨーだ。將軍、御用心を。いずれ含むところがあつてのこと。

ブラバンシヨー、ロダリーゴー、そのほか炬火や得物をもった役人が登場。

オセロー おい！ 待て、動くな！

ロダリーゴー シニョール、ムーアのやつです。

ブラバンシヨー 掛かれ、盗人をおさえろ！（敵、身方、ともに劍をぬく）

イアーゴー 貴様か、ロダリーゴー！ さあ、来い、お

れが相手になつてやる。

オセロー ひらめく劍を鞘におさめろ、夜露で錆びる。

ブラバンシヨーともあろうお方が、御年功によつてお命じあつてしかるべく、あえて得物に訴えられるには及びますまい。

ブラバンシヨー ええい、この薄ぎたない盗人め、どこ

へ娘を隠したのか？ 畜生にも劣るやつ、貴様は娘を

たぶらかしたのだ。考えてもみろ、物には道理がある、

妖術にたぶらかされでもしないで、あの優しく美し

い、なんの不自由も知らぬ娘が、あれほど結婚をきら

つて、血も同じこの国の富める貴公子さえ断りつづ

てきたのに、わざわざ世の物笑いの種になろうとて、

親のひざもとをのがれ、貴様のような男の、その黒ず

んだ胸に身を投じるわけがない——それ、見ただけで

身ぶるいの出る、その黒い胸に。世間に訊いてみるが

いい、だれの目にも明かなことだ、貴様は娘を妖術で

たぶらかしたのだ。あのかよわい乙女心を魔薬でしび

れさせ、分別を失わせてしまったのだ。事實はどこま

でも糾明してやる。そうに違いない、いかにもありそ

うなことだ。こうなったら、貴様を捕えずにおくもの

か。世を毒し、禁制の妖術を用いた罪人として引立て

てやる。やつをおさえろ。手向いしたら、容赦なく痛

めつけてやるがいい。

オセロー 手を出すな、双方とも待て。抜く時は、おれ

が知っている、人の指図は受けぬ。どこへでもお望みの

ところへ参り、当方の申開きをいたしましょう。

ブラバンシヨー 牢獄へ行け、法の定めるとおり、裁きの庭に引出されるまで、そこで待つのだ。

オセロー よろしいかな、お言葉どおりにしたがつて？
 そうして、ヴェニス公は満足されるとお思いか、御使者がこうして、わたしの側にあり、政府の命によりただちに馳せ参ぜよと申しているのだから？

役人 まことのことでございます。ヴェニス公は会議を召集されました。そちらへもお呼びだしが参ったはずとぞんじます。

ブラバンショー なんだと！ 公には会議を召集！ この真夜中に！ その男を引立てる。これとて遊びごとではない。公御自身、また仲間の議員たちにしたところで、この禍を他人事とは思ふまい。このようなふるまいが大びらに通うするくらいなら、奴隷や異教徒に政治を任せたほうが、よほどましだ。（一同退場）

3

〔第一幕 第三場〕

ヴェニス政庁会議室

ヴェニス公 および議員たちがテーブルを囲んでいる。役人数名。

ヴェニス公 次々にはいる情報が、こう脈絡を欠いておつては、いづれも信用するわけにゆかぬ。

第一の議員 さよう、相互に一貫性というものがない。わたしあての書面には敵艦隊の兵力、百七艘とあります。

ヴェニス公 わたしあてには百四十艘となっている。

第二の議員 わたしのは二百艘とある。しかし正確に一致しておらぬとは申せ——こうした場合、いづれおおよその見積で報告してくるのですから、違いがあるのもけつして珍しいことではありませぬ——とにかく間違ひなく一致している点は、トルコ艦隊がサイブラス島に向いつつあるということです。

ヴェニス公 それなのだ、確かに考えられることだからな。その点、情報に食い違いがあるからといって安心はできない。要点はそこだ、その心配だけ是否定するわけにゆかぬ。

水兵（部屋の外から声のみ） もしもし！ もしもし！

役人 船からの使者でございます。

水兵 はいって来る。

ヴェニス公 おお、何事だ？

水兵 トルコ艦隊はローズ島に向つて航行中、その旨、政府に報告せよと、アンジェロー提督の命令であります。

ヴェニス公 この情勢の急変、みなはどう考える？

第一の議官

ありうべからざること、そうとしか思われませぬ。そう見せかけて、われらを欺くための偽装行為でございましょう。そもそもサイブラス島はトルコにとって重要地点であるということ、のみならずわれわれとしては十分心にとめておかねばなりません。同島はローズ島以上にトルコの利害にかかわるものであるばかりでなく、またはるかに攻略しやすい状態にあるということ、というのは、要塞としての施設、装備、いずれの点においてもローズ島に比してはるかに劣っておりますし——こう考えてくると、トルコ軍ともあろうものが、ことさら不手際な戦略を採り、先にすべきをあとに廻し、易きを捨てて利を顧みず、あえて無益な危険を冒すがごとき挙に出てようとは、到底、思いもよらぬことと言わねばなりません。

ヴェニス公 そうだ、その点どう考えてみても、ローズ島攻略の意ありとは信ぜられぬ。

役人 またもや使者が。

使者がはいってくる。

使者 申しあげます。ローズ島に直航しておりましたトルコ艦隊は、同島付近にて後続艦隊を待受け、それと合流いたしました。

第一の議官 それ、思ったとおりだ。合流兵力はどのくらいと見えたか？

使者 三十艘ほどにございます。それが目下行動を再開、航路をそのまま逆にとり、今やあからさまにサイブラス島を目ざして動きはじめました。以上、同島を預る総督、忠勇なるわれらのモンターノ殿よりの御報告、このうへは一刻も早く御救援をとのことにございます。

ヴェニス公 これで決った、目標は確かにサイブラス島だ。マールカス・ラクシコスは、もうヴェニスにはいなかったな？

第一の議官 ただいまフロレンスに参っております。ヴェニス公 わたしの名で書面を作ってもらいたい。すぐさま急使をたてるように。

第一の議官 あれにブラバンシヨールが、ムーア將軍もいっしょだ。

ブラバンシヨール、オセロー、イアーゴー、ロダリーゴー、そのほか役人たちが登場。

ヴェニス公 オセロー將軍、さつやくだが、頼みがある、国敵トルコの撃退をお願いしたい。(ブラバンシヨールに) 気がつかなかった、御出席いただけたのは何より、御身の意見と助力が、今夜は格別ほしいと思っていたところだ。

ブラバンシヨール 当方も同じこと、ぜひお力添えを。ともあれ、ぶしつけはお許しいただきたい。実は職務の

ためでもなければ、何か事件を聞き及んでのことでもありません。こうして寢床からはいだして参ったのも、けっして国家の大事にせかれてのことではございませぬ。申さば、おのれひとりの悲しみに涙の堰を破られて、他の憂いごとはことごとくその流れにのまれ、今はただそのことばかりで、どうにもなりません。

ヴェニス公 それはまたどうして？

ブラバンシヨ 娘が！ ああ、娘が！

一同 亡くなられたのか？

ブラバンシヨ さよう、死んだものと同じこと、この身にとりましては。娘はたぶらかされたのだ、奪われ、汚されたのだ、いかさま師から仕入れた妖術と魔薬のおかげで。さもなければ、どうしてあのような愚かな間違をしでかしましょう、分別もあり、目も見え、感覚もそなわっている人間なら、まじないでも掛けられぬかぎり、どう考えてもありうべからざることでございます。

ヴェニス公 だれであろうと、そのような忌わしい手だてをもつて、娘御の正気を奪い、また御身の手から娘御を奪った男は、御身自身、厳しい法規に照して、心のままに極刑に処せられるがよい、たとえそれがわたしの子であろうとはばかるには及ばぬ。

ブラバンシヨ そのお言葉には心からの御礼を。これがその男にございます、このムーアこそ。見うけるところ、どうやら特別の御命令によりお呼出しになったらしゅうございますな。

一同 なんとということだ。

ヴェニス公 (オセローに) 当事者として、何か言い分があるのは？

ブラバンシヨ ありますものか、申しあげたとおりにございます。

オセロー 国家の枢機にあずかられる議官諸兄、わが尊敬と信愛の的たる御一同の前に謹んで申しあげる、わたしがこの老人の膝下より娘御を連れ去ったというのは紛れもない事実、事実、わたしはその女をおのが妻といたしました。が、この身の罪と言え、その一事に尽きる、他には何もない。自分はずっと弁舌の徒にはあらず、物柔かな言いまわしはとんとわきまえておりませぬ。思えば、この両の腕に力のつきはじめし七歳のころより今日に至るまで、せいぜい九か月の例外を除いては、もっぱらその力を戦の庭に用いてまいりましたため、広い世間のことは皆目わからず、軍旅のいさおし以外なんの話柄も持合わせぬ男、今さらおのれの立場を美々しく飾りたて、自己のために弁じようとはつゆ思いません。が、もしお許しいただけるな